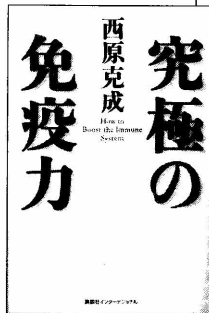


## 免疫学の新しいパラダイムを打ち立てる試み

### 究極の免疫力



西原克成 著

●講談社  
インターナショナル

1680円(税込)

☎03・3944・6492

多くの病気の発生機序があきらかにされているのに、免疫病の原因は、いまだによくわからない。その一方で、文明がすすむことと比例するようにアレルギーなどの免疫病が激増している。治療はステロイド使用など対症療法がもっぱらで、二十一世紀に残された最後の難病であるらしい。

解答がないのは、医学が臓器別になつて、からだを丸ごと一人の人間として診察できなくなつたからであるとする著者は、生化学を修め、口腔外科の臨床に当たりながら実験進化学の研究を進め、その結果から新しいパラダイムを打ち立てようとする。キーワードは医学がこだわる、質量

のある物質に対して質量のないエネルギーであり、そのエネルギー源としての、細胞のミトコンドリアである。

そしてがんも含む免疫病の原因の多くが、このミトコンドリアの機能低下であるとする。その結果は細胞の新陳代謝(リモデリング)を阻害し、諸病を発生させることになる。

ではその機能低下の原因はなにか。冷たい食品の摂取などによる過冷却であり、そのうえに口呼吸などによる日和見感染であるという。

となれば、食生活を改め、口呼吸を正常な鼻呼吸にもどす。そしてからだを温め、睡眠を十分にとるなどして休養すればよいと、実際に改善した臨床

例を示している。

これは免疫が旧来の「自己・非自己」のパラダイムに留まっているのに対し考え方を大きく統合医学へと発展させる方向性を示している。

あるいは著者の説くところには、正統派の医学者からは細部で異論がでるかもしれない。

しかし、一見作業仮説にみえた論から、新しい医療が発展してきた事例は数限りなくある。

なによりも著者の、既成の医学に挑むエネルギーは圧倒的であり、さらなる検証を進めてもらいたいものである。

(評者/宮田親平 医学ジャーナリスト)